

第一章 不登校

【定義】

文部科学省の学校基本調査によると不登校の定義は「何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にあること（ただし、病気や経済的な理由を除く）」となっている。

第二章 事例研究

【目的】

本研究では、教師が不登校児と関わる過程で不登校児に対してどういった理解の変化があり、関わってきたのかを調査する。また、その際の不登校児への支援の方法についても調査する。この調査を行うことによって今、不登校児を担当している現役教師の方や教師を目指している学生の力になればと考えている。

【方法】

- ・現役教師に面接調査で、一対一で行った。
- ・面接場所は、教師の方が勤務している学校に訪問した。または、電話インタビュー。
- ・教師の方からは、事前にこちらが用意した質問に答えてもらった。

電話インタビューの教師の方には、電話インタビュー数日前に FAX にて質問項目を送り、その後に電話にて行った。

- ・中高の現役教師6名を予定していた。
- ・面接期間は、8月中。
- ・面接中は、IC レコーダーを使い面接内容を録音した。（承諾していただいた方のみ）

第三章 【結果・考察】

ほとんどの教師の方も教師になりたての頃は、不登校児に対して否定的な印象をもって居る方はいなかった。しかし、一人の教師が不登校は「怠け」の延長と考えを持っていた。不登校児を担当することに不安があっても、否定的にとらえない教師。それは何故か。筆者が考えるには、不登校児と出会い、教師がすべきことを行い、どんな結果でも担任としての役割が終われば、その不登校児との関わりも終わる。その繰り返しが行われているのではないだろうか。

教師になりたての頃と実際に不登校児を担当してからのアプローチの変化はなかった。同じアプローチのでも教師によって異なっていた。支援については不登校児の様子を見ながら、行っていかなければならない。タイミングを計りアクションを起こすことはとても難しいことではあるが、それが不登校児との信頼関係を築いていく上ではとても重要なことであり、どんなことでも話せる関係を作ることが大切であると筆者は考える。

【参考文献】

- ・不登校（登校拒否）の教育・心理的理解と支援 2005 佐藤修策 （株）北大路書房
- ・教師のための不登校サポートマニュアル 不登校ゼロへの挑戦 2005 小林正幸／小野昌彦著
- ・学校と家庭を結ぶ不登校対応 2006 小澤美代子 土田雄一 （株）ぎょうせい
- ・不登校 再登校の支援 2003 河合伊六 桜井久仁子著（株）ナカシマヤ